

## 中川辺駅は無人駅のため火災発見が遅れば大事に至ることも予想された。 無人駅の問題が表面化したということである。

名古屋地本は11月27日、申6号で申し入れた2013年10月2日に発生した高山線中川辺駅の駅舎火災について会社と協議を行った。

会社回答

1. 今回の中川辺駅の火災原因を明らかにすること。

【回答】原因は不明である。

2. 今回の火災発見、通報、消火の時系列と対応を明らかにすること。

【回答】今回の事象ではホームに居たお客様が火災発見し、中消防署へ通報。消防署から警察経由で東海総合指令所に連絡が入った。その後は指令からの指示により係員を手配し、しかるべき対応を行った。

3. 現在の無人駅、夜間無人駅の施設管理のあり方について明らかにすること。

【回答】セキュリティに関する事であるため、詳細については差し控えるが、引き続き適切な施設管理について徹底して行く。

4. 今後、無人駅及び夜間無人駅における強盗、火災、いたずら、事故などの対応について明らかにすること。

【回答】引き続き適宜適切に対応して行く。

主な議論

組合：火災は外の壁が燃えたのか。

会社：部屋の中です。

組合：部屋の中と云うことは原因は漏電なのか。

会社：原因は不明です。

組合：被害額どの位なのか。

会社：それほど大きな金額ではありませんでした。

組合：被害は部屋の壁だけか。

会社：消火の時に制御盤が水がかかり被害を受けた。

組合：火災警報器等の設備は設けていなかったのか。

会社：それをしたら、ホームの端などになる建物にも必要となる事になる。

組合：そうかも知れないが、他の箇所でも発生する可能性があるのではないか。

会社：線路沿いの設備も対象となってしまうことなる。

組合：無人駅にした事によ発生したリスクではないのか。

会社：駅の無人化と火災の原因は関係ない。

組合：駅の無人化は治安、安全を損なうものであるとこれまで主張してきた。駅員が居れば万が一、火災が発生しても火が出ることはなかったかも知れない。

以 上